

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600092		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家 島		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町中島287-1		
自己評価作成日	令和2年12月17日	評価結果市町村受理日	令和3年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600092-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 めくもりの家 サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
調査日	令和3年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が快適にご本人らしく生活できることを目標に、職員は利用者様のお気持ちを聴きながら日々支援をしています。一人一人の個性を大切にすることで笑顔がみられ穏やかな生活を過ごしていただいています。新型コロナウイルスにより外出支援やご家族との交流が減る中、より一層利用者様の心の支援が必要となりました。日々の当たり前の生活を安心して送っていただけるように職員一同心を合わせ努めています。また、医療機関との連携を密に行い最期まで支援ができるように研修を重ねています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、昨年から続く新型コロナウイルス感染症予防対策として、利用者のマスク着用・三密を避けるため少人数に分けた活動や散歩・居室での食事支援、職員もまた、利用者と話する時には一定の距離を保つなど、事業所で出来る最大限の対策に取り組んでいる。面会や外出を制限している為、気分転換を図れるよう、これまで以上に利用者とうっくり話をしたり、庭の花を愛でながらお茶を飲むなど、利用者に寄り添っている。また、内部研修では、職員が順時講師役となって資料を作り、介護サービス実施記録簿も詳細に書く事で、職員の資質向上と共に、より良い利用者サービスと振り返りに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常の支援の中で理念に沿えるように管理者を中心に声をかけながら皆で実践している。また、全体会議で理念を確認したり、名札の裏に記入し、常に一人ひとりが責任を持って考えられるようケアの確認をしている。	毎年、年度始めの研修や全体会議の中で理念について学び、確認している。職員の名札の裏にも書かれており、常に意識して理念の実践に取り組んでいる。また、外部者にも事業所理念を示す為、パンフレットや玄関先にも掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため交流の場が減っているが、散歩の時に挨拶を交わしたり地域の情報が利用者様に伝わるよう、広報を読んでいただいたりしている。地域の美容院が訪問して髪を整えてもらい交流している。	地域行事の参加や、利用者の作品を公民館に出展したりと、地域のひととのふれあいに大切に交流をしていた。コロナ禍の今は、三密を避けながら、散歩時に挨拶を交わしたり、回覧板の地域情報を利用者に伝えるなど、収束後の楽しみにつないでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解が深まるように、主に運営推進会議を通して活動内容や支援方法を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地域の方、町の職員、ご家族様との運営推進会議を行っているが、現在はコロナ感染予防のため文書にて活動内容や研修内容等を報告をしている。	運営推進会議で災害時対応や行事、研修などの報告をし、忌憚ない意見交換で運営やサービスの向上につなげていたが、現在は、書面会議としている。構成メンバーに行事や活動報告等を文書で送り、意見や質問等を受け、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	通常は町の高齢福祉課の会議や研修に積極的に参加をしているが、開催が中止となっている。電話等で情報が共有できるよう努めたり、コロナウイルス防止のため研修会に参加する等連携している。	町主催の会議や研修には積極的に参加し、介護保険について広域連合と情報を共有している。現在は、会議や研修も中止となり、コロナ関連の情報が日々メールで配信されている。事業所の状況を報告しながら、新型コロナウイルス感染防止対策に万全を期している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての考え方や事例検討を職員全員で勉強し、責任等の理解に努めている。また、定期的に委員会を開催している。緊急でやむを得ない場合は、利用者様、ご家族様に十分に説明を行い理解をいただいている。	前回の取り組み目標であった身体拘束適正化委員会を設置し、同法人の4事業所合同で開催している。具体的事例を挙げて意見交換し、各事業所に持ち帰り職員に報告している。また、内部研修では、拘束しないリスクを回避できるよう、ヒヤリハットや事故報告を検証し、拘束をしないケアの意識化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ感染にてストレスが多くなっているため、管理者は常に職員の精神面に気をつけ、悩み等を話せる雰囲気作りに努め、虐待防止に努めている。また、ニュースで取り上げられた事例について意見交換を大切にしている。		

グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーを中心に資料を作り、職員が学べるようにしている。今後も基礎理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて文章の読み合わせを行い、十分に確認し説明を行っている。これからの生活での不安や心配事を尋ね話し合い、お互いが理解することを大事にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防として面会を控えていただくようお願いしているため、利用者様の日常の様子が伝わるようお手紙や写真を送り、ご家族様と気軽に意見交換ができるよう努めている。また、電話にてご様子を伝える事が増えている。	今までは、面会時に利用者の様子を伝え、個別近況報告書などを手渡したり、返信用封筒を同封して家族に送付していた。コロナ禍の今は、家族の要望を文書で受け取ったり、電話で聞くなど、信頼関係の継続に努め、意見を運営に反映させている。窓越しや庭での面会も、新型コロナの状況に応じて行ったり、近況報告書に加えて、利用者の写真を同封して送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月行われる全体会議で職員の気づきや提案を収集し、管理者会議に議題として報告を行い、意見交換をしている。また、決定事項や改善点を全体会議で伝え、職員の質の向上につなげている。	管理者は、日頃から、職員が自由に意見や提案が言える職場環境作りに努めている。全体会議や管理者会議でも職員の意見を議題に挙げて意見交換し、運営に反映させている。また、年間研修計画も職員の希望を聞き作成している。コロナ禍における職員のストレスについても配慮するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月希望休を尋ね、無理のないシフト作りに努めている。また、能力や努力を認め給与に反映させたり、やりがいがもてる仕事内容となるよう話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナウィルス感染症予防のため、法人外で受ける研修は少ないが、年間を通じた法人内の研修をして知識向上できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナウィルス感染症予防のため、同業者と交流する機会がないが、また機会があれば参加したい。		

グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実際の居室利用状況を見学していただいている。入居前の面談で現在の悩みや要望を伺い、入居後の安心した生活設計に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でこれまでのケアの利用状況、心配事や悩みを伺っている。また、様々な要望にお応えできるよう話し合い、相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、利用者様のお話を傾聴する段階で、お話しの中にある不安や要望を感じ取り、それに対して安心できる支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あいさつや会話、見守りの対応の中で、利用者様の好み、安らぎを感じ取り、それを取り入れる支援に努めている。お互いに共感する事で信頼感情が生まれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に近況報告として書面を送り日常の様子、健康状態等を伝え利用者様の状況を確認していただいている。また、支援の方向性をご家族と話し合い、支援に反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚、友人等が面会に訪れ楽しい時間を過ごされている。現在はコロナウィルス感染予防のため面会の制限があるが、お電話や手紙で関係が継続できるよう支援している。	家族や親戚、友人等の来訪時には、面会室で茶などで接待し、訪問を利用者と一緒に喜び、帰り時は再来の言葉を掛け、継続につなげている。現在は、感染防止の為、面会を制限しており、暑中見舞いや年賀状を出したり、電話等で関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	三密の関係で大人数の集合ができないため、距離等を考えて少人数でのお話しの場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も事業所やケアマネ、医療関係での情報交換をしている。また、いつでも相談、連絡がとれる関係作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中でアセスメントをとり、ご本人の意向や希望の生活を把握している。困難な場合にはご家族から聞き取りをしたり、これまでの生活歴や習慣から本人の気持ちになって意向の方向性を考えている。	職員は、日頃から、時間をかけて利用者とコミュニケーションを図るよう心がけ、思いの把握に努めている。新型コロナ関連のテレビ報道等を見ながら、利用者にわかりやすく伝え、家族との面会自粛についてを説明している。利用者や家族の思いを汲み取り、状況に応じて工夫をしながら、窓越しや庭での数分の面会を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護サマリーを通して確認したり、ご本人やご家族から話を伺い生活歴や病歴、馴染みの暮らしを把握している。それに近い環境を作れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントをとり、職員間で共有することで一人一人の過ごし方、心身状態を把握している。また、状態や暮らしが変わればすぐに情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にご家族が参加していただけるよう手紙を送り、意向書を記入してもらいご本人のみでなくご家族の希望も反映させている。話し合いの中でケアプランを作成している。	介護計画作成時には、家族に担当者会議への参加案内と共に、「介護についての要望書」を送り、事前に家族の思いを把握している。個別の介護記録簿は、計画に基づいた利用者ニーズの実践状況が確認できる様式となっており、モニタリング時にも活かしている。	職員は、常に介護計画を意識してケアに携わり、その実践を詳細に記録している。もう一歩進んで「趣味に取り組む」「リハビリの継続」等、具体的内容を盛り込んだモニタリングにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別介護記録簿を記入し、情報共有している。また、健康記録や夜勤者の記録ノート、特に気を付けることを書いた連絡ノートを作成し、皆で情報を共有できるよう努めている。個別介護記録簿はモニタリングとして活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染防止のため地域の行事は中止になっているが、紙面等で連絡を行い柔軟に対応を行っている。		

グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ流行下で地域資源の利用が減りましたが、地域の方とのあいさつや日常生活の関わりで暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続希望を大切に、協力医との連携をとり、安心な医療の提供を行っている。体調変化時には様子を報告し、連携して病気の早期発見に努めている。	現在、利用者は協力医を選択し、月2回の往診を受けている。プライバシーを守るよう、面会室を診察室とし、職員と看護師職員も同席して利用者の話を聞きながら、状態を把握している。専門職によるリハビリ体操も週2回取り入れ、身体機能低下の予防に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師に日常生活での気づき、変化を報告し、利用者様の健康管理と一緒にやっている。体調変化時は介護職員と共に主治医の往診を受け看護、介護の連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーを渡し情報の共有をしている。退院時はカンファレンスを行い安心して戻るができるよう体制を整えている。医療機関とは今後も連携を深めていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し、その後重度化するような場合には主治医を交え再度話し合いを行っている。事業所ですることを説明し、ご家族の希望を取り入れながらチームで支援を行っている。	看取り指針で事業所の看取り姿勢を明確にし、家族と共有している。終末期には家族に宿泊場所を提供し、看取りケアのチームの一員として協力を得ている。職員は、主治医や看護師の助言を得ながら、看取りに関する研修を重ね、利用者と家族の思いに寄り添いながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のリスクを常に念頭に置き、マニュアルを用いて職員研修に初期対応の方法や大切さを理解、訓練している。ヒヤリハット報告や危険予知には情報、意見交換、共有を行い、実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災用品の備蓄、職員の連絡網を提示し、水害感染症に対してもマニュアルを作成し研修を行っている。定期的に消防署立ち会いのもと防災訓練を行い、手順の確認、リスクの対応を学んでいる。(停電時の酸素機械の安定、酸素ボンベの利用方法、確保等)	今年度は、地震と火災を想定した「総合訓練計画書」と「実施結果報告書」を消防署に提出している。2階の車椅子利用者の避難対策や、酸素ボンベの予備確保など、利用者の状態に合った訓練方法に取り組んでいる。備蓄品や職員連絡網、夜間の緊急時体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者様が過ごしてこられた環境や生活を理解して一人ひとりに接している。特に言葉使いに気をつけ、認知症のため同じこと繰り返す利用者様にも簡潔で分かりやすい丁寧な言葉で話かけるように努めている。	全職員が認知症の症状について理解し、状態に合わせた言葉遣いや接遇方法を考えながら、利用者一人ひとりと向き合っている。全居室に机と椅子を設置し、6室にはトイレがある。プライバシーと利用者個々の生活リズムを守りながら、支援に努めている。	研修を重ねながら、利用者一人ひとりに適切な支援を行うよう努めている。さらに職員が自分の対応方法を振り返り、自己覚知するチェックシート等を活用する取り組みにも期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の生活リズムを守りながら、思いや希望を理解し、提案したりして支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	習慣を大切にして、その日を利用者様の生活リズムで過ごせるように支援している。裁縫をされたり、絵を描かれたり、新聞をゆっくり読むなど見守りながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた清潔な洋服等で身だしなみができているか、適切な助言ができるよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から野菜を収穫し、ピーマンの種とり、玉ねぎの皮むき等お手伝いしていただき、「先程の野菜ですよ」と声かけをしている。盛り付けにも気をつけて食欲増進に心掛けている。	朝食はパンと御飯が選択でき、食事は利用者が食べ慣れていた家庭料理を中心にした献立で、正月のおせちも手作りである。畑で収穫した野菜も調理に工夫し、美味しくて安価な提供を維持している。現在は、感染防止の為、居室での食事提供を行い、介助や見守りが必要な人のみ食堂で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お膳を引く前に、完食時は「うわーありがとう」「食べていただくのが一番嬉しい」「また美味しいの作るね」等の一言、食べ切れていない時は「ゆっくりでいいから食べようね」と声かけし、完食につながるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様の口腔内を清潔にするため口腔ケアの声かけを行い、ご自分でできる方には見守りをしたりできない方には支援を行い口腔内の清潔に努めている。		

グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の支援は個々でそれぞれ違うが、できるだけ声かけをしてトイレ誘導をしている。安易におむつを使用しないように、排泄パターンを把握してできることはご自分でしていただいている。	利用者の排泄リズムを把握し、必要な人には早めの声かけとトイレ誘導で失敗を減らしている。自立排泄ができる利用者は、自室のトイレを使い、職員が後始末や更衣を確認している。自室にトイレがあることで、夜間も安心して排泄できる環境にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表にて排便の有無の確認管理に対応している。便秘気味の方は食事や水分量を見直したり、運動を取入れたり漢方を試してみたりと工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の体調管理、体温、血圧測定を必ず行い、入浴施行している。入浴をゆっくりと楽しめるように個浴で行い、職員と会話をしながら笑顔で入っていただけるように努めている。	週2回の入浴を基本とし、入浴前にはバイタルチェックで体調確認を行い、支援をしている。浴室は明るく、個浴での入浴となっている。利用者の状態によっては、2人介助で支援している。重度化により、入浴が体力的に負担になる時はシャワー浴や清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠を把握してゆっくり休んでもらえるように努めている。寝具を清潔にして、安心して睡眠がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は命に関わることなので、名前と薬の確認を確実にし、医療事故につながらないように注意している。服薬して変化があった場合は主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウィルス感染予防で、皆が集まって行う行事は行っていないが、趣味がある方は継続してもらったり、家事の手伝いやおやつのお供えを楽しんでもらう等の工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウィルス感染予防のため外出支援は行っていないが、天気の良い日には庭の花を見たり、近所を散歩したりと日常的な外出を楽しんでもらえるように努めている。	以前は、買い物や喫茶店への個別外出を楽しみ、年間行事では、季節の花見や家族との初詣も行っていた。現在は、コロナ禍にあるため、三密を避けながら、事業所周辺を散歩したり、広いウッドデッキでの外気浴等で気分転換を図っている。リハビリ体操や廊下歩行など、下肢機能低下の予防に努めている。	

グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は少なくなってきたが、買いたいもの代行する等して支援している。電話をしてご家族に買い物を頼む方もみえて希望に合わせたお金の使用をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でご家族や友人と話したり、手紙のやり取りをしたりご本人の希望に沿い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節の装飾や花を飾り、居心地よく生活できるようにしている。間接照明を使用して光の刺激を減らしたり、空調調整をしている。コロナウイルス感染予防のため適時換気している。	今年度は、ZOOMIによるリモート調査で確認することとなった。共用空間は外の日差しが入り明るい。テーブル、椅子、ソファが複数配置され、好きな場所で過ごすことができる。至る所に置かれた季節の花と観葉植物、花柄のカーテンも家庭的な明るい雰囲気である。面会室テーブルには、アクリル板が設置され、換気をまめに行い感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下などどこでも居場所作りができるようにソファやテーブルを置き、気の合う方とくつろぐことができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は生活動作のしやすい空間になっているか、安全が確保されているか確認している。使い慣れた家具や装飾品、写真を飾り居心地よく過ごせるように支援している。	2階居室には、トイレと洗面台が設置され、全室に机と椅子、ソファを事業所で提供している。利用者は本や手芸など趣味の物を自由に持ち込んだり、小物や花を飾り、居心地良く暮らせるよう工夫している。入浴日に合わせたシーツ交換や、掃除なども、職員と利用者が一緒に行い、清潔な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるように館内は段差を少なくし、手すりやエレベーターを設置している。車椅子の方でも移動しやすいように廊下の幅も広くし、自立が継続できるように工夫している。		